船下りだけではない――中国の〝田舎〟に滞在して心身をリフレッシュ

中国・桂林は独特の美しい景観を持ち、山水画の世界を堪能できる「漓江下り」があまりにも有名だ。しかし、それ以外にも日本であまり知られていない、魅力的な観光資源がたくさんある。近年はウォーキングなど、体験型のプログラムも整備されてきている。２～３泊の滞在ではもったいない。少なくとも１週間は滞在しないと、桂林の本当の魅力は味わえないのではないか。桂林での長期滞在に耐えうる日系のホテルも05年にオープン。旅行業者に向けて、同ホテルを利用した桂林での長期滞在プランを提案している。桂林の新旧の観光魅力を紹介するとともに、日系ホテル「フォーチュンコンドミニアムホテル」の概要を紹介しよう。

桂林での長期滞在に便利なフォーチュンコンドミニアムホテル

中国・桂林で長期滞在のすすめ

桂林唯一の日系ホテル「フォーチュンコンドミニアムホテル」

日本人向けのサービスが充実 別荘感覚で快適なホテル生活

フォーチュンコンドミニアムホテル（幸運酒店公寓）は、桂林における唯一の日系ホテルで、05年7月にオープンした。

その名が示す通り、施設はコンドミニアムタイプで、客室はキッチン、ダイニングルーム、リビングルーム、ベッドルームなどを装備する高級マンション仕様。標準タイプで85～130平方㍍と、通常のホテルに比べ、かなり広い。利用者は別荘感覚で、快適なホテル生活を楽しめる。

ホテルは桂林屈指の高級住宅街に位置。桂林空港から車で40分、市内中心まで車で10分、観光スポットの七星公園へは徒歩圏にある。

フロントとロビー、レストランがあるメーン棟（A街区）と、宿泊専用棟（B、C街区）に分かれる。合計14棟あり、各棟の出入り口は客室のカードキーで開錠する方式。

客室は全198室。A街区の客室は最高級のデラックスタイプで、主に個人客向け、B、C街区の客室はスーペリアとスタンダードタイプで、主に団体客向けに使用している。客室タイプは部屋の広さや家具により異なるが、すべてがスイートと言って遜色ないレベルだ。

日系ホテルだけに、ソフトのサービスが充実している。特に日本人向けのサービスは絶対の自信を持っている。今年3月に着任した中野総支配人を筆頭に、スタッフ200人のうち、日本人は7人。日本語が堪能な中国人スタッフも10人以上をそろえ、フロントへの問い合わせは24時間、日本語で対応できる。

パブリック施設は、中国料理レストラン、日本料理レストラン、ロビーラウンジ、カフェバー、ビジネスセンター、ギフトショップ、フィットネスルームなど。

レストランは、食事面でとかく不評の多い桂林にあって、傑出した存在だ。料飲業界40年以上のベテラン、中野総支配人が自ら市場に出向き、素材を吟味。山菜や川魚など地場の素材や、中国南岸トンキン湾の海の幸をふんだんに使っている。

日本料理レストランは日本で18年修業をした李旭料理長が腕を振るう。宿泊客のほか、地元在住の外国人駐在員、留学生らでにぎわっている。

朝食ビュッフェは本場の中華ほか、ご飯、味噌汁、焼き魚、煮物など日本食をそろえる。ルームサービスも日本食を用意している。

カフェバーは中国産米酒、紹興酒のほか、日本酒、ビール、ワイン、ソフトドリンクなどがそろう。お薦めは地元の農家が自家用に作った特製いも焼酎「夢幻龍」。おつまみの小鉢とともに、1杯10元（約150円）と手ごろな価格で販売している。

中野訓・総支配人に聞く

笑顔の接客モットーに

――経歴を教えてください。

「氷川丸のスチュワードから、23歳の時、東京のパレスホテルに出向し、以来、現在までホテル一筋です。中国が好きで、北京に語学留学などをしていたことから、そのあとは上海、桂林、西安など中国のホテルで総支配人などを務めていました。99年、上海のホテルを定年になってから、ベトナムのホテルの総支配人やホテルカレッジの学科長をしていましたが、今回お話があって、当ホテルに就職したわけです。アパレル会社への就職も決まっていましたが、桂林の魅力には勝てませんでした（笑い）」

――桂林のどこが魅力ですか。

「素晴らしい自然、おいしい地元の料理、星空と蛍の乱舞、そしておいしいお酒です。観光客が行かない農村の風景、小川が流れ、アヒルが群れているような自然の風景――。町を出ればそんな風景がたくさんあります。料理は特に地元産の野菜料理が絶品。家庭でお母さんが作る田舎料理は、きっとどこの国の人の口にも合います。さつまいもから作るいも焼酎もぜひ味わってほしい逸品です」

――ホテルのPRを。

「設備もさることながら、サービスには自信があります。オープン以来、笑顔での接客を心掛けていますし、敷地が広いだけに、清潔には特にこだわっています。とにかくご満足のいくサービスに努めてまいりますので、日本から多くの送客をお願いします」

広々としたリビングルーム

独立したベッドルーム

客室にはキッチンも完備

ホテルスタッフ。右端の男性（河崎健三・副総経理）の胸元は名前とともに日本の国旗を表示。日本語ができるスタッフと一目で分かる。左端は料理長の李さん

中国料理レストラン。朝はバイキング会場に

おしゃれなカフェバーではドリンクが１杯10元

天ぷらやそばなど日本料理にも自信がある

幸運酒店公寓
The Fortune Condominium Hotel
中国広西桂林市施家園路28号
Tel.＋86－773－3111555　Fax.＋86－773－3111755　Email : info@guilin-fp.cn
日本での問い合わせ先＝株式会社フォーチュンパシフィック・クリエイト
〒101－0054　東京都千代田区神田錦町３－19廣瀬第２ビル
Tel.03－5217－0623　Fax.03－5281－2938　www.fortunehotels.net

漓江下り

水墨画の世界が広がる漓江下り

「両江四湖」の遊覧船からの眺め

観光客でにぎわう陽朔の西街

陽朔の劉三姐のひとコマ

遇龍河ではイカダで鵜飼いも

高田の月亮山

資江の船下り

八角寨の景観

桂林観光のハイライト ウォーキングコースも

毎年中国人1千万人、外国人100万人が訪れるという、桂林観光のハイライト。

桂林郊外の乗船場（竹江）から下流の町、陽朔までの60キロを、4時間かけてゆっくり下る（雨の少ない1～2月は2～3時間のコースになる）。川の両岸には自然が作り上げた奇峰、奇岩の造形美が次々と現れ、移ろいゆく景色は見る人を飽きさせない。

有名な景色は、羊のひづめに似て、切手のデザインにもなった「楊堤山」、岩肌に9頭の馬の模様が見える「九馬画山」、日本でウーロン茶のCMに使われた「黄布倒影」、中国の20元札のデザインになった「興坪」。

外国人用の船は午前9時ごろ発、終点の陽朔に午後1時ごろ着。繁忙期は1日100艘の船が出航する。

川岸にはウォーキングコースが整備された。SARS禍で一時客足が遠のいた時に、新たな魅力付けとして行ったもの。沿岸の町、楊堤と興坪の間20キロを、5時間かけて歩く。山紫水明の景色を眺めながらのウォーキングは健康志向の観光プログラムとして注目されそうだ。

桂林市内

3つの山と2つの洞窟 遊覧船で夜景を楽しむ

「三山、二洞、一条江」（3つの山、2つの洞窟、1つの川）。桂林を代表する観光地を指す言葉だ。

三山は象鼻山、伏波山、畳彩山で、いずれも市内中心にある小山。象鼻山は漓江と桃花江の2本の川の合流地点にあり、象が鼻を伸ばして川の水を飲んでいるように見えるのがユニーク。伏波山は「矍鑠」（かくしゃく）の言葉を生んだ後漢時代の将軍ゆかりの小山。畳彩山は唐の時代の仏像が多く残されている。

二洞は蘆笛岩と七星岩。蘆笛岩は全長2キロの桂林最大の鍾乳洞。七星岩は七星公園内にある鍾乳洞。この公園にはラクダの形をした巨大なラクダ岩やパンダが棲む動物園もある。公園は米国のクリントン前大統領が演説を行った場所としても有名。

一条江は言うまでもなく、漓江。

市街地を流れる2本の川（漓江、桃花江）と4つの湖を結ぶ巨大プロジェクトが02年に完成した。これを機に、川と湖を巡る夜の遊覧船が観光客向けに運航を始めた。

「両江四湖」と呼ばれるこの遊覧船は、ライトアップされた川岸、湖岸やビルのカラフルなネオンサインを眺めながらの1時間と1時間20分コース。川岸の舞台では美女による楽器の演奏や京劇の上演なども行われている。水位が違う2本の川を渡る時、船ごとリフトで上げ下げされるのが面白い。

桂林郊外

中国の〝田舎〟を体感 イカダ下りや棚田観賞

●陽朔とその周辺

漓江下りの終点、陽朔も桂林同様、カルスト地形の奇峰、奇岩が見られる風景区だ。

船着場付近は西街と呼ばれ、古代中国をイメージしたおしゃれなカフェやみやげ店、ホテルが軒を連ねる歩行者天国の商店街になっている。船下りを終えて一服したり、散策を楽しむ外国人観光客でにぎわっている。

ヒット映画「単騎、千里を走る」の監督、チャン・イーモウがプロデュースする屋外水上ショー「劉三姐」が近年、人気を集めている。夜の上演のため、このショーを目当てに陽朔に宿泊する観光客も多い。

漓江の支流、遇龍河では観光客向けのイカダが運航している。漓江下りとはひと味違ったのどかな船下りを楽しめる。

陽朔近郊の高田は田んぼが広がるのどかな田園地帯。岩山の真ん中に大きな穴が開いた「月亮山」などの見どころがある。

●資源とその周辺

桂林から車で2時間の資源県の東北部に位置する、八角寨は今、注目されているハイキング（山登り）コース。雲台山とも言う。峰は合わせて8つで、八角形に見えることから八角寨と名付けられた。

丹霞地形の風景区は、中国では福建武夷山、広東丹霞山と、ここ広西八角寨しかない。この中では八角寨が最も典型的な丹霞地形だ。山頂に登れば周囲の山々や廃墟となった村を一望できる。

●龍勝とその周辺

桂林から北へ90キロの龍勝は、チワン族、トン族、ヤオ族など多くの少数民族が暮らす町だ。

チワン族が山の斜面に作った大規模な龍脊棚田が有名。1500段の階段を上ると、棚田のダイナミックな景観を観賞できる。域内は1泊できる旅館も整備している。

漓江下り

桂林市内

桂林郊外

桂林メモ

ヤオ族の現地ガイド唐さん

22の少数民族暮らす

市民の９割サービス業に従事

桂林は中国南部、広西チワン族自治区の都市で、市内人口60万人。陽朔など郊外の10県を合わせると472万人になる。2千年の歴史を持つ、広西の中心都市のひとつ。日本とは熊本市と友好提携をしている。年平均気温20度と、穏やかな気候が特徴。22の少数民族が暮らし、それぞれ独自の生活を営んでいる。

漓江下りに代表される観光の町。市民の9割が観光を含めたサービス業に従事している。年間観光客は1300万人で、このうち日本人は7～10万人。

日本との直行便はなく、広州などでの乗り継ぎとなる。日本と広州との間は中国南方航空などが就航している。